

ファイルドキャンパス(FCC)構想についてのアンケート調査へのご協力ありがとうございました

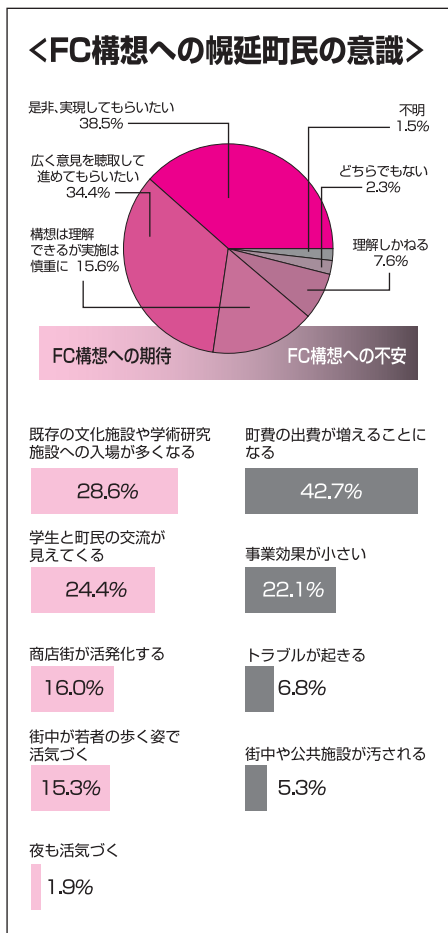
研究機関の集積を魅力ある地域づくりに

幌延町では、FC構想への民意と大学側のニーズを探る政策アセスメントとして11月にアンケート調査を行いました。町民アンケートでは、千八十五世帯に配布、回答者は262人で、回答率24.1%という結果となりました。(ご協力ありがとうございました)

また、大学アンケートでは、調査対象の道内外202大学・学部・学科に配布し、酪農学園大学の5学部・学科を含め38の大学・学部より回答を頂きました。

FC構想への町民の「期待」と「不安」

FC構想を「是非、実現してもらいたい」が38.5%、「広く意見を聴取して進めてもらいたい」が34.4%、「構想は理解できるが実施は慎重に」15.6%、「理解しかねる」7.6%、「どちらでもない」2.3%、「不明」1.5%という結果となりました。



自由記述においては、事業の偏りを心配する意見や町民の活力低下や社会不安を指摘する意見等がありました。

地域と大学の関係

連携交流で基幹産業酪農に強い希望

町民が抱くFC構想による地域との交流イメージでは、酪農家への体験実習やグリーンツーリズムでの農業体験、和牛提供食事会の開催など酪農との連携についてのアイデアが提案された他、FC構想への反対意見の中でも、酪農製品のブランド化や酪農経営に直接関わる政策の実施を求める声がありました。

「地・学連携」の推進は、地域を活性させる

多くの大学が宿泊室・浴室・研修施設・会議室等の条件整備を希望

大学アンケートは、幌延町の全てを研究テーマとするFC構想への参画意欲と、それを実現するための条件整備へのニーズを探る目

<調査の方法>

町民アンケートでは、幌延町内全戸の世帯主に郵送し、配布回収を行った。回答数は262人で、回収率24.1%。回答者の内訳は、男性が77.9%、女性20.6%。大学アンケートでは、道内国公立52大学より98学部学科、道外国公立大学より104学部学科を合わせた202学部学科を抽出、郵送により配布、回収を行った。回答率は18.8%で38大学学部学科が回答。

的で実施し、38学部学科からの回答がありました。結果として、基幹産業である酪農や人文系の幅広い研究ニーズに興味を示す酪農学園大学の関心の高さや、幌延町への研究所・サテライトの設置を考える意欲的な大学の姿勢が、また大学の経営戦略として地域との連携事業や貢献事業を積極展開する「地・学連携」の意図が浮き彫りとなりました。

一方で、助成金として学生の旅費支援を求める大学が半数の19件ありましたが、大多数が宿泊施設・会議室等の条件整備を望んでおり、財政支出の都合により提携大学の拡大が見込める結果が得られました。

アンケート調査結果は振興課地域振興係で公開しています。